発行日：2023年(令和5年)12月15日　発行元：帝京平成大学スポーツ局メディア部

対東京農大２回戦に勝利した本学ナイン（大山航平撮影）

来季、悲願達成に期待

東都大学野球秋季リーグ3部は9月6日に開幕、熱戦を繰り広げ、10月30日全日程を終了した。開幕から負け知らずの本学は、入れ替え戦進出がかかった最終第5週で、勝ち点4で並ぶ東京農大と対戦。第3戦まで持ち込んだが、延長10回のタイブレークで逆転を許し、あと一歩のところで優勝を逃した。東京農大は入れ替え戦で2部最下位の大正大に勝利し、2部復帰を決めた。（関連記事2・3面）

本学は、開幕戦の成蹊大との一回戦で延長までもつれ込む苦しいスタートとなったが、10回に勝負を決めた。試合後、原監督は、「選手たちは自分自身のやるべきことをしっかりとやり、悔いの残らない打席、投球をやっていくようにする」と厳しい表情で語ったが、その言葉通り、2回戦以降の試合では、打線が好調を維持し、全勝街道を突っ走った。

東京農大戦2回戦で得点を挙げ喜ぶベンチ（長島優希撮影）

優勝に向けて天王山となった第5週の東京農大戦は、1回戦で6－0と大敗したものの、2回戦は5－3で快勝。3回戦も初回に1点先制し流れをつかむかに見えたが、その後は追加点を挙げられず、5回に同点とされると、延長10回、逆転を許した。

秋季3部リーグは本学のほか、東京農大、学習院大、順天堂大、一橋大、成蹊大計6校の顔ぶれ。2戦先勝で勝ち点1となる総当たり戦で順位を競った。

来季の顔ぶれは、大正大、学習院大、順天堂大、成蹊大、上智大となる。

◇◇◇

第1週　対成蹊大戦

一回戦は延長まで続き、苦しい戦いとなったが、二回戦では序盤こそ接戦となったが、7回に一挙5得点を挙げ、大勝した。

第2週　対学習院大戦

一回戦は、打線が爆発し、2桁安打で勝利。二回戦も3回に1点を返されたが、得点を重ねた。

第3週　対順天堂大戦

一回戦4回、2つの失策から1点を失ったが、5回に逆転。二回戦は、7回に4点を入れるなど危なげない試合展開を見せた。

第4週　対一橋大戦

一回戦は投手リレーで相手打線を散発3安打に抑え込み快勝。二回戦は、5回に逆転されるヒヤヒヤの展開となったが、8回に逆転した。

発行日：2023年(令和5年) 12月15日

打撃十傑

順位	選手名	大学名	打席	安打	本塁	打数	盗塁	打率
1	古川	東農大	58	20	0	46	3	0.435
2	有馬	東農大	47	15	0	35	8	0.429
3	仲田	成蹊大	48	15	2	39	0	0.385
4	和田	東農大	50	13	0	35	1	0.371
5	菊池(希)	東農大	40	13	1	36	0	0.361
5	中道	成蹊大	36	13	0	36	1	0.361
7	中島(隆)	帝京平成大	38	9	0	26	1	0.346
8	岩浪	順大	38	12	0	35	3	0.343
9	岡島	順大	49	16	0	47	3	0.34
10	大石	帝京平成大	55	15	1	46	6	0.326
	杉本	学習大	49	14	0	43	4	0.326

ラストシーズンを終えて

秋季リーグ戦が９月６日(水)に開幕し、私たち４年生にとってのラストシーズンが始まった。春季は負け試合からのスタートだっただけに、開幕戦は必ず勝って幸先の良いスタートを切ろうとチームの士気も高まっていた。

成蹊大学との開幕戦を２連勝すると、勢いそのままに第４週まで勝ち続け、勝点４で首位に立った。最終週の相手は、勝点で並ぶ東京農大。２部復帰を目指す伝統校だ。２勝先勝したチームが優勝し２部昇格をかけた入替戦に進むという天王山となった。まさに私たちが望んでいた展開だった。

１回戦は打線が振るわず6-0で敗退したものの、２回戦は、４回の先制でチームは勢いづき、７回に大石、８回には和氣の４年生２人のレフトへの本塁打で勝利を決めた。４年間彼らの頑張りを見続けてきたからこそ、同期の活躍は心嬉しく、感極まった。３戦目は、1-1の息詰まる展開を見せた。そして突入したタイブレーク戦の延長10回表、暴投で１点を許し、その裏、２死満塁のチャンスを作るも得点に繋がらず、残念ながら優勝は逃げていった。

２部昇格はまたも持ち越しとなったが、ベンチとスタンドが一体となり最後まで「全員野球」で戦い抜いたシーズンだった。公営球場での試合では、全部員が応援に参加し、スタンドから迫力ある大声援を送ってくれた。応援は、選手たちの大きな支えになっていたに違いない。チームの結束力では他の５大学には負けなかったと自負している。

最後まで諦めずに戦い続ける選手の姿、スタンドからの大声援。あの光景は忘れることはないだろう。試合後に涙する同期、後輩の姿を見て私自身も悔しさがこみ上げた。でも、こんなにも素晴らしいチームの一員になれたこと、マネージャーとしてチームを支えることができたことを誇りに思う。

今後も本学チームへの声援をよろしくお願い致します。(人文社会学部観光経営学科４年赤坂源美)

２回表１死２塁、曽場①のあたりは内野安打となる(長島優希撮影)

	順位	大学	試合数	勝数	負数	引分	勝点	勝率
1部	1	青学大	12	7	5	0	3	0.583
	2	日本大	13	7	6	0	3	0.538
	3	中央大	15	8	7	0	3	0.533
	4	亜細亜大	13	6	7	0	2	0.462
	5	國學院大	13	6	7	0	2	0.462
	6	東洋大	12	5	7	0	2	0.417
2部	1	駒澤大	11	10	1	0	5	0.909
	2	専修大	12	7	5	0	3	0.583
	3	国士大	13	7	6	0	3	0.538
	4	拓殖大	12	6	6	0	2	0.5
	5	立正大	12	5	8	0	2	0.385
	6	大正大	11	1	10	0	0	0.091
3部	1	東農大	12	10	2	0	5	0.833
	2	帝京平成大	11	9	2	0	4	0.818
	3	成蹊大	11	5	6	0	2	0.455
	4	順大	11	5	6	0	2	0.455
	5	学習大	11	4	7	0	2	0.364
	6	一橋大	10	0	10	0	0	0
4部	1	上智大	14	12	2	0	6	0.857
	2	都市大	15	8	7	0	3	0.533
	3	芝工大	15	7	8	0	3	0.467
	4	東工大	14	2	12	0	0	0.143

一回戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
帝平大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東農大	0	0	4	0	0	0	2	0	0	6

守備位置	選手	打数	安打	打点
[遊]	大石	4	1	0
[右]中	佐伯	4	0	0
[三]	前田(幸)	4	0	0
[中]	米澤	2	0	0
右	中島(楓)	2	1	0
[一]二	満田	4	1	0
[DH]	山本(大)	4	0	0
[左]	佐藤(駆)	2	0	0
[二]	宇都宮	3	1	0
捕	井田	0	0	0
[捕]	中島(隆)	1	0	0
H	守屋	0	0	0
R3	伊東	0	0	0

三７　球２　犠打飛１　盗１　失１
残６

		回数	被安打	自責
先発	野本　負	2 1/3	5	3
	林(侑)	1 2/3	1	0
	伊藤(翔)	2 2/3	3	2
	鶴我	2 1/3	2	0

二回戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
東農大	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3
帝平大	0	0	0	1	0	1	2	0	0	5

守備位置	選手	打数	安打	打点
[右]左	佐伯	3	1	0
[三]	前田(幸)	4	0	0
[DH]	和氣	4	2	1
[二]	満田	4	3	2
[中]	佐藤(駆)	3	1	0
[左]	曽場	3	1	0
右	中島(颯)	1	1	0
[一]	伊東	4	0	0
[捕]	中島(隆)	3	1	0
H	守屋	1	0	0
R	井田	0	0	0

三６　球４　犠打飛１　盗０　失１
残７　二塁打 大石 和氣
本塁打 佐伯

		回数	被安打	自責
先発	西本	3	0	0
	黒田　勝	3	4	1
	林(侑)	2/3	3	2
	伊藤(翔)	1/3	2	0
	鶴我	2	0	0

三回戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
帝平大	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
東農大	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	2

守備位置	選手	打数	安打	打点
[遊]	大石	3	1	0
[左]	佐伯	4	0	0
[三]	前田(幸)	4	1	1
[DH]	和氣	2	0	0
D	米澤	1	0	0
[一]二	満田	3	2	0
[右]	中島(颯)	3	1	0
[中]	佐藤(駆)	4	0	0
[二]	宇都宮	2	0	0
一	伊東	1	0	0
[捕]	中島(隆)	3	1	0
H	守屋	1	0	0
R	井田	0	0	0

三５　球３　犠打飛４　盗１　失１
残９　二塁打 大石

		回数	被安打	自責
先発	野本	2 2/3	3	0
	黒田	3 1/3	2	1
	林(侑)	1	0	0
	鶴我　負	3	2	0

Cheer Dance

チアダンス部 来年度から念願の準強化部へ

チアダンス部が来年度から準強化部として活動することになった。

創部は2018年。現在は部員10人で週3日(火・木・土)活動している。今年度は全米大会や世界大会への出場を目指すUSA新人大会に出場し、2位。さらに全日本チアダンス選手権予選に出場した。大会出場だけでなく、オープンキャンパスや学園祭など学内のイベントでも練習の成果を学内でも披露。

松本彩佳キャプテンは、「冬のUSA大会に向けて新しい振り付けを作って頂いたので、今年度の反省を活かして少しでも良い評価に繋がる演技を披露出来るよう練習していきたい」と語っている

Soccer men's

来季2部降格も復帰に期待

本学男子サッカー部は、千葉県大学リーグで1部に昇格した今季、最終成績が3勝13敗2分で9位に終わり、来季は2部に降格することになった。後期スタート時点では8位と残留圏内だったが、後期は2勝7敗に終わり、順位を下げた。高嶋建吾主将(健康医療スポーツ学部4年)は「後期リーグでは、前期の結果を踏まえ更なる順位上昇を狙った中で、失点が重なってしまい負けが続いてしまいました。今年度から準強化指定部となり変化があった中で1人1人が『凡事徹底』を意識し活動してきました。結果としては目標としていた千葉県リーグ1部残留を成し遂げることはできませんでしたが、来シーズン以降に繋がるものが得られたと考えています。」と語った。

Basketball

2部リーグ最下位 12位で3部降格

本学男子バスケットボール部は今季、関東大学バスケットボールリーグ戦2部に昇格したが、戦績は2勝20敗に終わり、全12大学中最下位。来季は3部でプレーすることになった。2部には、本学のほか、国士舘大、法政大、駒澤大、東洋大、青山学院大、順天堂大、上武大、明星大、関東学院大、東京成徳大、玉川大の全12大学で順位を競った。

Judo

野村選手　全日本学生柔道体重別選手権大会でベスト16

体重別の個人戦で学生王座を争う全日本学生柔道体重別選手権大会が9月30日、10月1日の両日、東京・九段下の日本武道館で開かれた。本学男子柔道部からは、66kg級秋山悟大選手（健康医療スポーツ学部1年）、81kg級星野選手、90kg級菊池鷹選手（健康医療スポーツ学部1年）100kg超級野村選手の4選手が出場。野村選手はベスト16の4回戦に駒を進めたが、大外刈りで一本を取られ敗退した。

66kg級の秋山選手は1、2回戦と一本勝ちしたが、3回戦敗退。星野、菊地両選手はそれぞれ初戦敗退した。

女子の部では、70kg級田嶋海佳選手（健康医療スポーツ学部3年）、78kg級佐藤こよみ選手（同1年）、78kg超級近藤瑠美選手（同2年）の3選手が出場した。近藤選手は初戦を体落で一本勝ちしたが、続く3回戦では上四方固を決められ敗退。田嶋選手は、1回戦、大外刈りで一本勝ちしたが、2回戦では延長3分41秒、大外刈りの技ありを取られ、涙を飲んだ。佐藤選手は初戦となった2回戦で袖釣込腰で一本を取られ、敗退した。

体重別全日本王者を決める講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（11月4日、5日、千葉・千葉ポートアリーナ）では、2日目の男子の部に、81kg級老野選手のほか、星野晃鷹選手（健康医療スポーツ学部4年）、100kg級野村柊太選手（健康医療スポーツ学部3年）が出場したが、両選手ともに初戦敗退。初日の女子の部には、70kg級田嶋、78kg超級近藤の2選手が出場したが、2選手とも初戦敗退に終わった。

78キロ超2回戦、体落で一本勝ちした近藤（大山航平撮影）

男子100キロ級2回戦の野村、一本勝ちの瞬間（長島優希撮影）

Baseball

最終週　対東京農大戦詳報

惜しまれる敗戦 来季への教訓に

第1週から第4週まで白星街道を突き進んできた本学と、勝ち点で並ぶ東京農大との最終戦は、千葉・市原市のゼットエーボールパークで行われた。東京農大はここまで8勝1敗。今季、2部から降格し本学との対戦に2部復帰がかかっていた。三回戦は延長までもつれ込む展開となったが、本学はあと一本が出ず、入れ替え戦進出はかなわなかった。

一回戦

投打かみ合わず無得点

3回に4点を先取されると、7回には2点を追加された。本学は、持ち前の打線が湿り、散発4安打に抑えこまれ、零封された。

二回戦

本塁打2本で突き放す

4回に無死1・3塁から5番満田のライトへのヒットで1点先制。その裏、同点とされたものの6回に1塁から大石がレフトスタンドにツーランホームランを、8回には和氣がソロホームランを放ち、勝利を決めた。

三回戦

延長10回逆転許す

1回、1番大石が左中間への2塁打で出塁、2番佐伯の犠打で一死3塁とすると、3番前田の遊ゴロの間に大石が生還、1点を先制した。5回に同点とされると、その後は、両チームとも得点できず、無死1・2塁からプレーを開始するタイブレークでの延長に突入。10回表、1死2、3塁から暴投で逆転を許した。その裏、二死満塁の好機を迎えたが、あと一本が出ず、得点できなかった。

二回戦で気合の入った投球を見せる黒田投手（大山航平撮影）

Soccer women's

全日本大学選手権への出場権を獲得

第37回関東大学女子サッカーリーグ1部は、10月29日に全日程を終えた。本学は、山梨学院大、早稲田大に続いて3位で、年末年始の全日本大学選手権への出場権を得た。

1部は、本学のほか東洋大、山梨学院大、早稲田大、神奈川大、日本体育大、東京国際大、日本大、十文字学園女子大、筑波大、大東文化大、国際武道大の計12校で構成。上位8チームは、年末年始の全日本大学選手権に出場する。

後期初戦となった大東文化大戦では、前半40分にFW北川心子がヘディングでゴールを決め1点を先制。後半には、54分にMF佐藤千優が持ち込んでゴールを決めた。初戦は2-0で勝利を収めた。

今期最多得点を記録した筑波大戦では、FW鈴木菫、FW北川心子らがゴールを襲い、前半だけで5得点をリード。後半79分にはMF古賀花野がPKを決めて、6-0と快勝した。

優勝した山梨学院大戦では、前半29分に1点先制された。しかし、32分にDF太田綾音がゴールを決め、1-1で前半を終えた。後半は、ゴールを奪えず引き分けに終わった。

2位となった早稲田大戦では、前半にFW古賀花野、DF鈴木菫がシュートを放つも決まらず、20分に先制を許した。後半は相手のシュートをゼロに抑えたが、得点できず、0-1で惜敗した。

今期最終戦の東洋大戦では、前半13分、MF古賀花野が先制点を決めた。後半75分、MF浅野綾花のアシストからMF古賀花野が2点目を決めた。後半83分に1点を取られたが、2-1で勝利した。

神奈川大戦で相手のマークをかわすMF古賀（大山航平撮影）

神奈川大戦でシュートを放つ北川心子（大山航平撮影）

	東洋	帝平	山梨	早稲田	神大	日体大	東国	日大	十文字	筑波	大東	武大
東洋大学	＼	3●4 1●2	1△1 1●2	1○0 1●3	1○0 3○1	1●2 1●3	4○0 0●1	2○0 2△2	3○1 3△3	2○1 5○2	4○0 4○0	9○1 5○0
帝京平成大学	4○3 2○1	＼	0●1 1△1	4○0 0●1	1○0 2○0	2●3 0●1	4○0 1○0	0△0 0△0	1●2 2○1	4○1 6○0	5○1 2○0	1○0 2○0
山梨学院大学	1△1 2○1	1○0 1△1	＼	2○0 2○1	0●1 2○1	2○0 2○1	0△0 2○0	2○1 4○1	3○1 0△0	3○0 1○0	4○1 2○1	6○0 4○0
早稲田大学	0●1 3○1	0●4 1○0	0●2 1●2	＼	2○0 4○0	2○1 2○0	1○0 3○2	2○0 1△1	0△0 1○0	3○0 4○0	2△2 0△0	3○0 4○2
神奈川大学	0●1 1●3	0●1 0●2	1○0 1●2	0●2 0●4	＼	2○0 0●1	5○1 0△0	2○1 1●2	1○0 0△0	0●1 1△1	1△1 3○1	1●2 0△0
日本体育大学	2○1 3○1	3○2 1○0	0●2 1●2	1●2 0●2	0●2 1○0	＼	1○0 4○0	1●3 1○0	0●2 4○1	3○1 3○0	0●4 3○0	0●4 4○0
東京国際大学	0●4 1○0	0●4 0●1	0△0 0●2	0●1 2●3	1●5 0△0	0●1 0●4	＼	0●3 1●2	0●2 0●2	1○0 1●2	1○0 1○0	0△0 0●1
日本大学	0●2 2△2	0△0 0△0	1●2 1●4	0●2 1△1	1●2 2○1	3○1 0●1	3○0 2○1	＼	1●2 3○0	7○0 4○1	3○2 1●2	5○3 4○0
十文字学園女子大学	1●3 3△3	2○1 1●2	1●3 0△0	0△0 0●1	0●1 0△0	2○0 1●4	2○0 2○0	2○1 0●3	＼	0●1 1△1	1○0 1○0	1○0 2○0
筑波大学	1●2 2●5	1●4 0●6	0●3 0●1	0●3 0●4	1○0 1△1	1●3 0●3	0●1 2○1	0●7 1●4	1○0 1△1	＼	2○0 1○0	2○0 0●3
大東文化大学	0●4 0●4	1●5 0●2	1●4 1●2	2△2 0△0	1△1 1●3	4○0 0●3	0●1 0●1	2●3 2○1	0●1 0●1	0●2 0●1	＼	1○0 1△1
国際武道大学	1●9 0●5	0●1 0●2	0●6 0●4	0●3 2●4	2○1 0△0	4○0 0●4	0△0 1○0	3●5 0●4	0●1 0●2	0●2 3○0	0●1 1△1	＼

TEIKYO HEISEI SPORTS JOURNAL Vol.5
発行日：2023年(令和５年) 12月15日

老野選手 アジア大会 講道館杯 悔しい3位

五輪出場に向けて課題克服へ

講道館杯4回戦で袖釣込腰で一本勝ちした老野選手。長島優希撮影

本学男子柔道部の老野祐平主将（健康医療スポーツ学部４年）が９月下旬、中国・杭州で開かれたアジア大会に日本代表として出場、81kg級で銅メダルだった。11月はじめの講道館杯全日本柔道体重別選手権でも準決勝で不覚を取り３位に終わった。いずれの大会も優勝を目指していただけに本人には悔しい結果となったが、五輪出場に向けて今後の課題も見えた１年となった。

アジア大会は２日目の９月25日に登場。準決勝で今大会優勝候補と目された韓国のイ・ジョンファン選手と対戦。老野選手が終始支配する試合展開だったが、延長戦の末、総試合時間10分を超えた延長６分29秒、３つめの「指導」が与えられ、涙を飲んだ。３位決定戦では、バーレーンのゲルベコフ選手と対戦。延長戦でキレの良い内股を決めた。

体重別全日本王者を決める講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（11月４日、５日、千葉・千葉ポートアリーナ）では、順調に準決勝に駒を進めたが、延長２分20秒、一瞬のスキを突かれ、一本背負で涙をのんだ。

老野主将は、「アジア大会は絶対に優勝したいと望んだだけに、悔しさしかないが、外国人相手に試合を重ね、良い経験ができた。選手村の雰囲気など国際大会の雰囲気もわかった」と、来季の活躍に向けて決意を新たにしている。

REVIEW 2023

男子柔道部
主将 老野祐平

今季を振り返って

「体重別団体は、二回戦敗退という結果でベスト８を目標にしていたのでとても悔しかった。個人的には、アジア大会は絶対に優勝したいという大会だったので、結果には満足していないですし、悔しい気持ちしかありません。とはいえ、外国人と試合できる貴重な機会となりました。また、選手村や会場の雰囲気などいろいろな経験をすることができました。課題がいろいろ出てきたので克服していかないと、と思っています」

来季に向けて

「ぜひ優勝大会と体重別団体３位以上を目指して頑張ってもらいたいと思っています 。個人的には、来年はじめの国際大会に派遣されればそこで絶対に優勝するのと、４月の全日本体重別選抜で優勝するのと、世界選手権に出場して絶対に優勝することです」

女子柔道部
主将 真鍋心

今季を振り返って

「一人一人が自分の目標に向かってしっかりと稽古に励んできました。チーム全体の目標であった団体ベスト８には届きませんでしたが、強豪校に対して弱気になる事なく、全員が勝ちに行く気持ちで試合に挑めました」

来季に向けて

「新キャプテン田嶋を中心に、今まで以上の成績を残してくれる事を期待しています」

野球部
主将 曽場大雅

今季を振り返って

「２季連続２位に終わってしまい、あと一歩届かず非常に悔しいです。昨年は国士舘大学、今年は東京農業大学と、２部の壁は厚かったです。何かが足りない、その何を後輩たちには見つけ出してもらい、互角に戦えていることを自信としてひと冬乗り越えてほしいです」（曽場大雅主将）

来季に向けて

「今季、技術面としては外野の守備やチャンスでの一本が足りず、重要な場面で決めきれなかったので、来季はこの点を重点的に鍛えて行き、勝ちにこだわって行きたいです。昨年の４年生を神宮に連れて行けなかった悔しさを忘れずに、同じミスをせず全員で勝ち切って行きたいと考えています」（佐伯颯人・新主将）

女子サッカー部
主将 古賀花野

今季を振り返って

「関東大学リーグ戦を終えて、目標だった優勝を達成することができなかったことがとても悔しいです。ただ、今年のリーグ戦は学びと成長の沢山詰まった大会だったと思います」

今後の目標

「最終目標は全国大学選手権（インカレ）優勝です。関東リーグ戦はその通過点だと思うので、ここで下を向かずに試合の中で得た学びと成長を積み重ねて、インカレという最高の舞台で帝京平成大学の集大成を見せることができるように頑張ります」

男子サッカー部
主将 高嶋建吾

今季を振り返って

「今年度から準強化指定部となり変化があった中で１人１人が『凡事徹底』を意識し活動してきました。結果としては目標としていた千葉県リーグ１部残留を成し遂げることはできませんでしたが、来シーズン以降に繋がるものが得られたと考えています」

来季に向けて

「来シーズンは２部となってしまいましたが、１年での１部リーグ復帰を後輩に託します」

男子バスケットボール部
主将 板垣完太

今季を振り返って

「予想以上に２部はレベルが高く、負けが続きました。しかしチームとしてどうしたら勝てるかを考えて、一丸となり勝ちに食欲になることができましたが、追い詰めても勝ちきれない試合が多くありました」

来季に向けて

「今季の経験を活かして、来年はもっと勝ちにこだわって目標達成に向けて頑張ってほしいと考えています」

編集後記

TEIKYO HEISEI Sports Journal vol.5をお届けします。

強化指定部の今シーズンを振り返りました。フロント面は、３部優勝をもう少しのところで逸した野球を取り上げました。なかなか２部の壁は厚く、悲願達成はまたもや来季以降に持ち越されました。

本学始まって以来のオリンピアン誕生に期待がかかる男子柔道の老野選手は、学生生活最後の年、アジア大会で３位となり表彰台に立ちましたが、帰国後の講道館杯でも準決で不覚を取り３位と、本人にとっては悔しい結果となりました。卒業後は実業団で五輪を目指すようです。是非、夢を実現してもらいたいものです。

メディア部も、取材・執筆、ホームページでの速報など精力的な活動を展開してきました。

まだまだ力不足は否めず、今後も切磋琢磨して行く考えです。

紙面、ホームページ共に一層の充実を図るため、皆さんのご意見、ご提案、情報提供などお力添えをお願いします。

（編集部）

本号は、中嶋めぐ、髙木瑞希、比嘉理貴、西田愛彩、安達、今井健斗、上原蓮、大山航平、長島優希、野﨑浩洋、濱岡燎が担当しました。